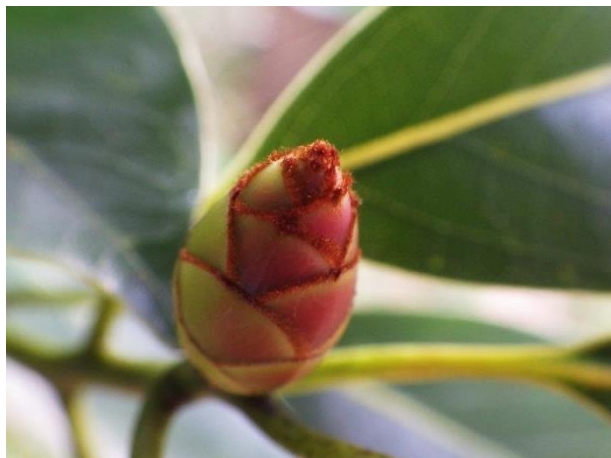


植物多様性センターの「タブノキの色」

タブノキは冬芽が大きく、芽鱗の重なり美しい植物です。

春には鱗芽は蠟燭のように伸びて、中から小さな緑色の両性花を咲かせます。伸びた芽鱗の色は淡いベージュやサーモンピンク、赤みの強いピンク色まで様々です。花が終わると、今度は花柄が赤く色づきます。離れたところから見ると花が咲いているように見えますが、鳥に実を食べて遠くへ運んでもらうための二色効果のアピールといわれています。



冬：芽鱗で覆われた冬芽は縁にまつ毛のような毛がある



春：木によって個体差がある芽鱗の色



初夏：伸びだした芽鱗の葉腋から小さな緑色の花(円内)が咲く



夏：果実(円内)が黒く成熟するにつれ、花柄が赤く色づく